

はくぶつかん

1977. 5. 1

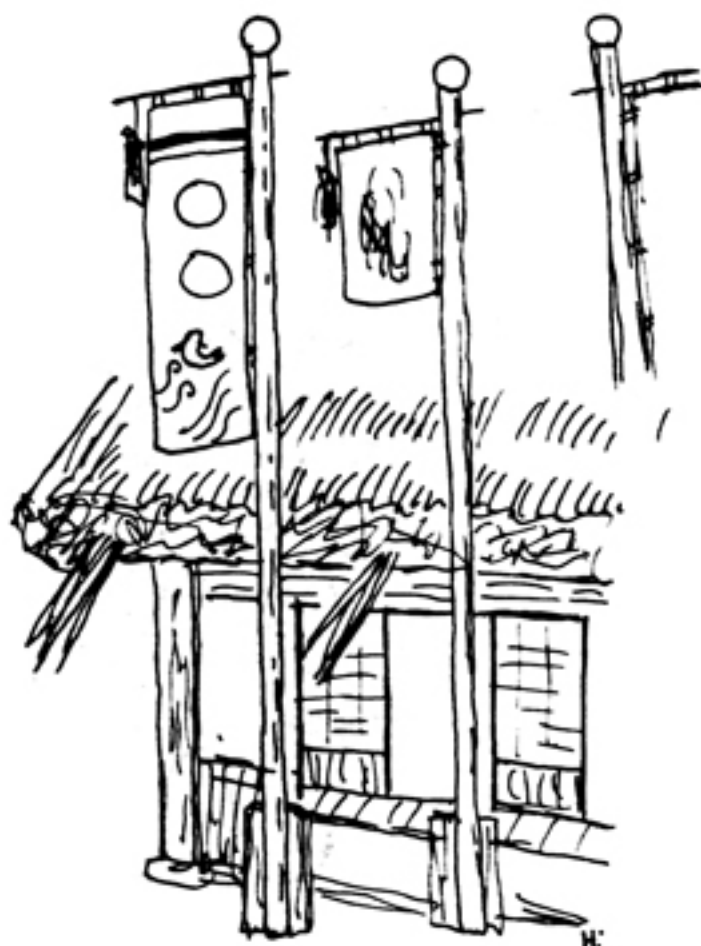
平塚市博物館

菖蒲(しよふ)屋根

五月節供に、家の屋根に菖蒲・よもぎ・かやを束ねてさすことを菖蒲屋根とか菖蒲で屋根をふくなどという。この習俗は全国的なもので、平安朝の「蜻蛉日記」「讀岐典侍日記」等にも記載されており、古くからの習俗であることがわかる。3束つくり、3か所にさすというのが一般的で、この日は風呂の中に菖蒲を入れた菖蒲湯、菖蒲酒、菖蒲の鉢巻などもする。

この菖蒲屋根のことを市内城所ではオンナノイエ(女の家)という。津久井郡ではオンナノヤネ藤野町でもオンナノイエという。この他群馬・大分・伊豆大島や中部地方・四国でもいう。5月はサツキというように元来田植え月であり、田植えという祭のために清慎厳肅にすごす月である。女の家というのは早乙女が、この中で忌み籠りをしたためと考えられる。

五月節供が現在のように男の節供となつたのは三月節供との対応のためであり、近世以降である。市内では五月節供を、国府祭とあわせて6月21日にしていた村々が多い。(ナオ)



5月の行事

8 自然観察会

大磯・虫窪付近で 化石や初夏の植物の観察をする。
定員〆切。

14・28 古文書講談会

15 体験学習シリーズNO11

ワラジを作ろう

最近まで身近かなハキモノであつたワラジを作ってみる。

申し込み 5月7日までに往復ハガキで

25 星を見る会

月の観察をします

午後6時～午後8時

申し込み 5月15日までに往復ハガキで博物館へ。多数の場合は抽選で30名なお小学生以下は父兄同伴で申し込んでください。

芝山吉邦作陶展

平塚の花と土と釉薬と・・・

平塚市万田在住の陶芸作家芝山吉邦先生の最近作に 川崎草心先生のいける平塚の花を御鑑賞いただく 花と器展です。

会期 5月18日～5月22日

插花 川崎草心・川崎草清・川崎草陽

6月の行事

4 自然観察会

カエルの声を聞こう

夜の田んぼで いろいろなカエルの声を聞く。小学生以下は父兄同伴のこと。

午後5時～8時半

場所 南金目、千須谷付近。

申し込み 5月25日までに往復ハガキで博物館へ。多数の場合は抽選で30名。



11 星を見る会

太陽黒点の説明のあと、望遠鏡で黒点の観察、スケッチをする。

午後2時～3時半

場所 博物館科学教室・屋上

申し込み 小学生以上、往復ハガキで博物館へ。多数の場合は抽選で20名。

国庫補助事業について

次の調査に52年度国庫補助金がつきました。

一砂丘上の遺跡詳細分布調査一

私達が生活している台地や平野には、古代人が生活した跡が300近く遺跡として確認されています。特に平野の砂丘上遺跡は6割を占め、平塚市の大きな特徴となっています。しかし近年の宅地化、工場化、道路工事等によつて、次々と貴重な遺跡が日の目を見ることなしに消滅しています。

今回の調査は遺跡破壊の歯止め役割を果たすばかりでなく、表面採集された資料から更に精査することによつて平塚の砂丘上における古代集落の糸口をつかもうとするものです。(新)

11・25 古文書講読会

17・18・19 体験学習シリーズNO12 土器と土偶を作ろう

縄文時代の土器、土偶の文様をつける縄文原体を作り、古代人の技術を学ぶ。

午前10時～午後4時

場所 科学教室

申し込み 往復ハガキで6月9日までに博物館へ。

参加費として 500円 当日徴収いたします。



一相模川流域の漁撈習俗調査一

博物館では、相模川流域で使われた漁具を収集活動の1つの柱としています。今までに約250点ほどの漁具が収集され、相模川流域で伝統的に行なわれてきた漁撈習俗が明らかになりつつあります。これらの資料をもとに、さらに相模川全流域のうちの7地点を選んで漁法や漁具などについて調査を行ないます。よろしくご協力のほど、お願いします。(ナオ)

はくぶつかん VOL2 62

昭和52年5月1日 通巻13

発行 平塚市博物館

〒254 平塚市浅間町12-41

TEL 0463-33-5111

印刷 平塚市総務部行政課文書係

©1977